

エネルギーを 学ぶ・伝える・考える



「個別最適な学びに関するモデル事業」の様子。それぞれが選んだ課題に対し、計画を立てて実験を行っています

独自の取り組みで 注目を集める気仙沼ESD

2015年に国連でSDGsが採択され、持続可能な社会づくりが国際的な課題となる中、早くからその必要性に気付き、ESDを進めてきた気仙沼市。「持続可能な社会の創り手を育む気仙沼ESD」他者と共により良い未来を想像し、自分らしく幸せに生きるための教育」を目指した取り組みは、さまざまな方面から注目を集めてきました。

気仙沼ESDの特徴は、多様性、文化継承、多文化共生、産業・食、防災・復興をテーマとし、地域や宮城教育大学と連携しながら推進していること。そして、街の東側が太平洋に面した港町ならではの海洋教育にも力を入れていることです。地域に恵みをもたらす海は、津波等、ときには脅威となる可能性もありますが、子どもたちは海と親しみながら、地域の基幹産業である水産業や海洋環境の他、防災・減災についてもしっかりと学びを深めています。

市内の各学校では、気仙沼ESDのテーマをもとに、それぞれが特色ある教

育を行っています。これらの学びは、SDGsで掲げられる17の目標のうち、「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「11. 住み続けられるまちづくりを」「14. 海の豊かさを守ろう」などに関わります。

こうした気仙沼市の教育活動は、経済協力開発機構(OECD)が2030年に向けてどのような学校教育が必要なのかを考える「Future of Education and Skills2030プロジェクト」の参考となりました。藤山先生は、今、教育の未来に向けて望ましい姿を描いた*「OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030」を教育に取り入れています。

※「Future of Education and Skills 2030 プロジェクト」の成果である、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組み。教育の幅広い目標を支えるとともに、私たちの望む未来に向けた方向性を示す(次項にイメージ図を掲載しています)

地域とともに進める 新しい「個別最適な学び」の モデル校としての取り組み

宮城県の北東端に位置する気仙沼市。沿岸地域のリアス式海岸は良好な漁場として栄え、県内屈指の港町として知られています。

その気仙沼市では、2002年に気仙沼市立面瀬小学校が環境教育に取り組んだことをきっかけに全市でESD(持続可能な開発のための教育)が推進されるようになり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールには全小・中学校と一部の幼稚園・高校が加盟しています。

ひろば506号でご紹介した藤山篤先生は、気仙沼市でESDを牽引する一人で2023年4月から気仙沼市立津谷中学校の校長を務めておられます。津谷中学校は2021〜2023年度まで宮城県が行う「個別最適な学びに関するモデル事業(以下、モデル事業)」のモデル校に認定されています。

今回は、ESDに関する藤山先生のことまでの取り組みや、「個別の探究学習」の展開についてお伺いしました。

訪れた場所

気仙沼市立津谷中学校

宮城県気仙沼市本吉町津谷校区2番地



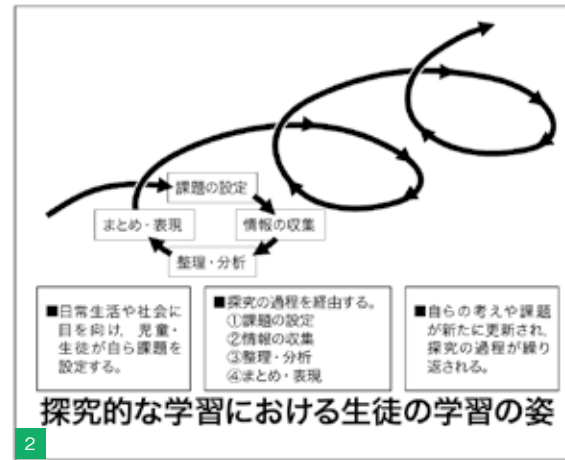
◀お話を伺った、津谷中学校校長の藤山篤先生



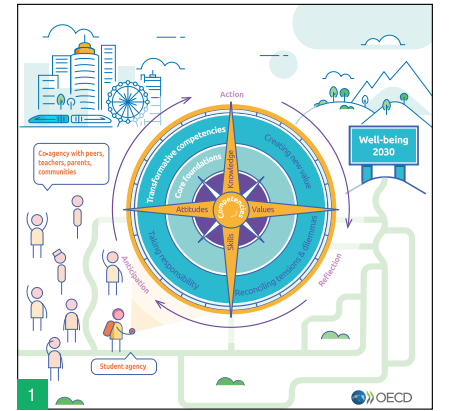
▶ESDや海洋教育など、自然を生かした特色ある教育が行われる気仙沼市



5. 稲垣先生によるモデル事業の参観の様子。1年生の理科で、3つの課題について単元内自由進度学習を行います。生徒はそれぞれ実験計画を立て、実行し、結果をまとめます
4. 昨年11月に行われた「公開研究会」。グループで数学に取り組んでいます
3. 東北放射線科学センターによる放射線学習の様子



2. 「探究的な学習における生徒の学習の姿」のイメージ図
出典：文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中学校編）」



1. 藤山先生が教育の参考とする「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」
出典：<https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

一人ひとりが学びを深める 個別の探究学習へ

藤山先生は、気仙沼市がESDを推進し始めた当初から、市内の中学校や気仙沼市教育委員会などで積極的な取り組みを進めてきました。教育委員会では海洋教育の担当となり、自らも勉強しながらESDを市内の学校に広めていったそうです。

ESDを推進する中で藤山先生が辿り着いたのが、集団で一斉に授業を進めるのではなく、生徒一人ひとりが自主的に学びを深める「個別の探究学習」の重要性です。特に、探究的な考え方や科目・教科の横断的な学習を通して課題を解決する力の育成を目的とした「総合的な学習の時間」では、「生徒が自分でテーマを見つけ探求していくことが大切」と藤山先生は考えました。そこで、まずは「エネルギー」などの大きな枠の中から関心のあるテーマを見つけた「個別の探究学習」を行い、生徒一人ひとりの学習の進捗状況を確認しながら、自由なテーマで学びを深めるフリー形式の探究活動を始めました。

地域のつながりを生かし より深い学びへとつなげる

フリー形式の探究活動では、最初に決めるテーマがとても重要です。藤山先生は、約50時間ある「総合的な学習」の授業のうち、10時間程度をテーマについて考える時間に充てています。テーマの決定に向けて、生徒はさまざまな専門家の意見を聞き、情報をインプットします。そして、自分が本当に関心のある分野を時間をかけて自己探究し、テーマを見つけていくのです。そのためには生徒を受け入れてくれる場所や専門家が必要になります。これまでいくつもの気仙沼市内の中学校に赴任してきた藤山先生は、多くの地域の方々とのつながりがあります。

「環境活動に係わるNPO法人や事業所などに『生徒の探究活動に協力してもらえないか』と依頼をしたことがありました。すると、逆に『その言葉を待っていたんだよ』と快く引き受けていただいたことに感銘しました。また、活動の趣旨を理解し、協力してくれる卒業生や保護者も多く、この地域で人に恵まれているからこそ、これらの活動を継続できたと感じています」と振り返ります。

モデル校として 新しい学びのかたちに挑戦

モデル事業を実施している津谷中学校では、東北学院大学の稲垣忠教授の指導のもと、その成果を市内の各小中学校に広めることを目的に、子どもたちの能力を育成するため、「個別最適な学びと協働的な学びの実現」に向けた研究を行っています。今年度からは新たな学びのかたちとして、一部の授業で単元内自由進度学習を進めています。

「通常、授業は教科書に沿って学習しますが、モデル事業に関する授業では、生徒自身がいくつかの課題の中からテーマを選択し、単元内で課題を見つけながら、一人ひとりが計画を立てて学びます。これまで消極的だった生徒が、自ら積極的に授業に参加するようになりました」
2023年11月にはこれまでの成果を発表する「公開研究会」を開催し、県内外から多くの教職員が視察しました。

地域と連携した継続的な 取り組みが高い評価を受ける

藤山先生がエネルギー教育をスタートし、その後気仙沼市でESDや個別の探究学習に取り組んでから15年以上が経った今、その積み重ねに著実な成果を感じています。「個別の探究学習で学んだ生徒の中には、高校生ながら全国を飛び回り、気仙沼市の町づくりに取り組んでいる生徒もいます。教員からも『生徒が自ら自主的に調べるようになった』という声も聞けるようになりました」
また、地域の人々と交流する中で「すごいね、頑張っているね」と前向きな言葉をかけてもらうことで、生徒たちの自己肯定感が育まれ、自信にもつながっています。以前に藤山先生が勤務していた松岩中学校、階上中学校でのアンケート調査では、県内の中学生の平均と比べて自己肯定感が非常に高いというデータがあったそうです。
「世界を見据えるために、まずは地域での活動が大切。そういった想いが持続可能な社会の実現の創り手を育成することにつながっていくべきだと思います」

生徒たちを成長させる

「自律」と「尊重」の心

藤山先生が教育の中で最も基本に掲げている目標が、生徒たちの「自律」、そして自分の気持ちと共に相手も「尊重」できる心を育むことです。近年、世界情勢やエネルギー問題が不安定となる中、より求められる力だと考えています。

「総合的な学習の時間を中心に、自ら課題を立てて探究する力を育むことで、津谷中学校の学校教育目標『未来を拓き自ら学び心豊かでたくましい生徒の育成』につながると思っています」

さらに、新型コロナウイルス流行による行動制限が解除されたことから、今後は地元の幼稚園や小学校と一緒に清掃活動をを行うなど、より地域と密着した活動をしたいと藤山先生は考えています。

「気仙沼市は、幼稚園から高校までユネスコスクールに入ってESDに取り組む珍しい地域です。これまで多くの人たちと関わってきた私が、地域と学校をつなぐハブとなり、内部からもっと盛り上げていきたいと思っています」

未来を思い

今、行動する力を

一方、課題として感じているのは、ESDや個別の探究学習を行う後継者への継承です。

「ESDの後継者として育てた教員が他地域に転勤してしまうことが課題です。できれば、その先生方が他地域でもこの取り組みを広げてくれればと考えています。今後も先生方にESDや個人探究のおもしろさを広めていきたい」

前回、藤山先生のベースとなる考えとして「Think globally, Act Locally. (地球規模で考え、地域で行動しよう)」を伺いました。津谷中学校の個別の探究学習のテーマには「Think future, Act now. (未来を思い、今行動しよう)」が付け加えられました。生徒一人ひとりの自主的な学習をさらに進め、地域との協働学習を進めることが津谷中学校での目標です。藤山先生の熱意で、気仙沼からまた新しいESDが生まれようとしています。



6. 昨年8月に開催された気仙沼市立中学校中学生代表者会議に参加。津谷中学校の生徒は全市の中学生による海岸・海浜清掃の提案をしました

7. タブレットを使ってレポートをまとめるなど、端末等の有効活用にも力を入れています

8. モデル授業では、教員対象の研修会も開催されました

